

What's IT? (第6回)

今回は協業サイトについて考えてみたいと思います。協業サイトとは読んで字のとおり、複数の企業が自社の商品開発や販売、技術提供や調達を目的に協同して運営するサイトのことで、同業者間、異業種間で、様々な物品、技術の流通に活用されます。何年か前に当青年中央会でも「H A N J Y O × 2」と言う冊子が発行された事をご存知と思います。同じような発想ですが、更にリアルタイム性、即効性、連続性を加えたものだと考えれば、イメージしやすいかも知れません。

半年ほど前、NHKの番組で大阪の下請け会社を中心に誕生し、現在2万社を超える中小零細製造業者が集まって運営される協業サイトが取り上げられ、様々な物品、技術が流通している様が紹介されました。大手企業からの受注が減る中、どの企業も生き残りをかけて真剣に取り組んで、実際、そこで出された部品調達依頼に対して、韓国の企業から問い合わせが来る場面もありました。

そこまでの規模は無理としても、様々な企業が参加している当中央会も、同様のサイトを立ち上げる事は、相当に意義深いものがあるでしょう。と言う訳で、当情報メディア委員会では協業サイトを立ち上げ様々な実験をしてみようと考えています。乞うご期待!!

聞いてごしない

Part 15

2000年は、有珠山噴火に始まり、三宅島噴火、鳥取県西部地震と天変地異激しい年であった。専門家によると、日本列島が活動期に入っているという。20世紀から新世紀を迎え、自然が人間に警告を与えているのかもしれない。

21世紀は「環境の時代」と言われている。地球はあらゆる生命と人類を育てた水の惑星である。緑あふれる山が水をはぐくみ、川へと流れ、海に注ぐ、そしてきれいな海が魚や貝を育て豊かな漁場を作る。

ところが近年、日本の森林は荒れ果て、ひん死の状況にあるという。過疎、高齢化、林業従事者の減少、又、外材に押されて木材の価格が低迷し、林業経営や木材産業が成り立たなくなっていることなどが原因であろう。

森林の持つ公益的機能(経済的価値)は75兆円という。わが国の一年間の農業総生産額10兆円と比較しても、いかに大きな価値を生みだしているかがわかる。

森林を荒廃から守る運動が各地方で行われているが、農業、林業、漁業が健全に展開されてこそ、国土保全や環境、緑や水の保全が可能なのである。

水や空気はタダではないのだ。われわれひとり一人が恩恵を受けているのだから、森林など自然の役割を見通し、関心を持ってほしいと思う。

鳥取県も島根県も、全国有数の山林県である。
〈中央会の山林王〉

西部青年中央会 OB・現役交流会のご案内

- 1部：ゴルフコンペ (OB、現役対抗ゴルフ大会)
日時：平成13年3月18日(日) 8:00~ 開会式
8:30 スタート
場所：米子ゴルフ場
- 2部：OB交流会 (懇親会、表彰式)
日時：平成13年3月18日(日) 18:00~
場所：ホールサムインかいけ

コピーをして名簿にお貼り下さい

(newカマーズ)



みや だいき だい すけ O型
宮崎 大介
中華料理 大和
飲食店経営
〒683-0845 米子市旗ヶ崎8-3-14
TEL 29-3287・3335 FAX 29-3335
(KT) 090-4570-8537 (EM) 09045708537@docomo.ne.jp
H13.01入会 (推薦者) 平野(忠) 夏山(裕) 〒683-0845 S.49.7.8 TEL 29-3287・3335

(コメント) このたびは、入会させていただきありがとうございます。まだまだ右も左も分からない若達ですが、一生懸命勉強し、またより多くの方々と交流を深める事が出来る様がんばります。今年には学生トリアスロンにも参加したいと思っております。この中央会は、学生トリアスロンのボランティア活動にも積極的に参加されているので、より自分を皆様に見てもらいたいチャンスだと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(newカマーズ)



ほり え のり お O型
堀江 則夫
境港海陸運送(株) 海運部海運課係長
港運送事業 通関業 船積代理店業 貨物自動車運送事業 倉庫業
〒684-0004 境港市大正町43
TEL 42-2121 FAX 42-2104
(KT) 090-5264-2111 (EM) skkai-6@infosakya.ne.jp
H13.01入会 (推薦者) 浜田(一) 後藤(秀) 〒683-0805 S.39.10.30 TEL.23-2733

(コメント) 皆様はじめまして。この度平成13年1月に入会させて頂きました、堀江則夫でございます。昭和39年生まれ、今年で37才になりますが、外見・精神ともに発展途上の未熟者でございます。何卒皆様方の御指導、御鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。勤務先の境港海陸運送では今年で丸14年、主に通関事務を担当しております。輸出入手続きに関する事何でもお気軽にお尋ね頂ければ何よりです。重ねて宜しくお願い申し上げます。

(newカマーズ)



やま ね ひろ のり AB型
山根 宏典
(株)ヤマネ産機 安来営業所販売課課長
機械工具、省力化機器販売
〒692-0011 安来市安来町1966-2
TEL 0854-22-0123 FAX 0854-22-0125
(KT) 090-3880-9054 (EM)
H13.01入会 (推薦者) 小椋(博) 夏野(慎) 〒689-3553 S.40.11.17 TEL.27-3380

(コメント) この度は青年中央会への入会をご承認いただきまして、誠にありがとうございます。私は昭和40年生まれの35歳です。入会の動機は、青年中央会の活動を通じて様々な事を勉強させていただきながら、多くの知人・友人を創っていきたくて入会させていただきました。これから青年中央会の一員としてガンバリますので御指導のほど宜しくお願いします。

2月オープン例会案内

と き 平成13年2月19日(月) 18:30~
と ころ ホテルサンルート米子
講 師 株式会社 日本アルマック
代表取締役 浦嶋繁樹氏
演 題 「企業経営におけるリスクマネジメントの役割」
~サブバイバル時代を生き抜く経営・リスク管理が企業を救う~
担 当 実学委員会

2月役員会報告

2月定例役員会が平成13年2月1日(木)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 2、3月例会開催の件
(2) 次年度会長推薦の件
(3) 新加入会員承認の件
(4) その他
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

毎年行われる成人式は、少なくとも我々の時代には、厳かな儀式の一つであったのだが...
先日成人式の模様をテレビで見たのだが、あまりにも目に余る行動に愕然とした。いたずらで終わればよいが、告訴(そして逮捕)となるまで境界を超えては同情の余地はない。成人と認められたからには自分たちの行動に対する責任を自覚し猛省してもらいたい。
また、私もすでに彼らの2倍の人生経験を積んでいるが、自己の研鑽と、子供の教育等を今一度、見つめなおさねばと思う今日この頃である。



発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷㈱

鳥取県中小企業青年中央会 義援金56万円を県知事へ寄託



奥森県会長は、鳥取県中小企業青年中央会を代表して、昨年12月25日、片山知事を訪ね、西部地震の義援金(56万円)を寄託した。

この義援金は、東、中、西各地区からの義援金並びに西部青年中央会が12月18日に開催した忘年例会のチャリティオークションの収益金の一部と併せ、奥森県会長ら役員が知事室を訪ね、「被災者の方の為に是非、役立てて頂きたい」と現金を手渡した。片山知事が謝意を伝え、震災復興に有効活用することを約束した。また、土井会長が「西部青年中央会においてはこの度の義援金のほか震災復興活動として、墓石の修復作業のボランティア活動も行っており、今後も微力ながら復興のために活動を進めていきたい。」と引き続き復興活動の協力を約束した。

片山知事との面談は当初の予定時間を遥かにオーバーし、知事は復興に掛ける意気込みと青年中央会への期待を表明した。

1月例会報告

1月15日(月)、ホテルサンルート米子にて志委員会担当による1月例会が開催された。島山会員の司会のもと、土井会長は挨拶で「後半の半年で志と実学の仕上げを」と呼びかけられ、続いて21世紀最初の入会者となる3名にバッジ授与が行われた。

委員長タイムでは志委員会釜田委員長が、昨年12月にボランティアで倒壊した墓石を修復した活動を紹介され、「参加者の志、ベクトルが一つになって目的を達成でき、大きな感動があった、それは仕事も同じ」と示唆に富む話をされた。

講演テーマ：「企業人としての志」

講 師：米子経営者漁火会会長 尾沢三夫氏

尾沢氏は米子市生まれ、中央会OBで、現在、(株)アルコン、山陰車輛整備(株)、尾沢運送(有)、(有)カートピアの代表取締役。

講演では、先ず、読書の重要性を挙げられ、歴史小説を主人公の気持ちになって多読することを勧められた。多数の本を推奨されたが、井上靖「蒼き狼」は、自身にも大きな影響を与えた一書とのこと。次に、人は人とつきあって磨かれると友の大切さを語られ、先輩、同年、後輩に一人ずつ、真の友を作るようにと助言をいただいた。(元々は、講師が中央会時代、足立統一郎氏(中央会OB)から教えられたという。)

また、社長にとって社員教育は非常に重要で、社員の志を高め、力をつけさせることが社長の仕事とされ、自社に「社長塾」という社員教育の場を作り実践されたことも話された。更に社長の合格点について、社員一人あたり年間100万円の利益を出すこと、と具体的数字を示され、経営者なら経営計画書を作成し目標に向かって、それがボロボロになるまでチェックを繰り返し数字と勝負せよと括られた。講演後、門副会長が謝辞を述べ閉会となった。



1 月度委員会報告

取材委員会（政治・地域ビジョン委員会）

政治・地域ビジョン委員会の1月委員会は19日（開催場所ホールサムイン皆生）に行われた。同委員会は業界人として地域を再認識すると共に将来像の展望を踏まえて、政界財界を考える事を目的とし、委員会内をさらに4部会に分割して各部会単位で担当するテーマを策定、調査、研究発表するという独特の委員会構成となっている。

4部会とは、政治行政、流通、サービス、建設部会である。取材を行った1月委員会は建設部会の担当であった。担当は後藤副委員長、茅野会員、土井（裕）会員の3名でそれぞれの会社説明、建設を含む現況、将来の展望等、を活発に発表し、その後業界人として厳しく見つめた質疑応答と移行した。

建設業界の厳しい現状の説明、各社の企業努力の説明、将来像の策定（リーダーとしての思い）の熱弁に対して、人材育成の点、営業活動の指針、中には一般住宅のセールの提案など非常に興味深い質問が次々と行われ、



最後に小椋委員長の質問で「会社のトップ若しくはリーダーとして商いを楽しいと思ったことはあるか？仕事を誇りに思っているか」とズバリ質問。同委員会の志を再認識した一瞬であった。皆、企業人として仕事に誇りを持ち楽しく仕事をこなすのがトップ、リーダーの条件である。小椋委員長の思いが委員会メンバーのやる気を増長させていると我を忘れて聞き入ってしまった。これからは後半戦益々委員会を盛り立てて頑張ってください。

広報委員会 岩崎康朗

new カマーズ委員会

平成13年1月11日（木）於：米子食品会館 出席者/14名
内容く土井会長

人間は利己主義的な考え方をしている人が95%をしめているが、経営者においては、利他的な考えを持ち行動しなければならない。というのは、利他的とは神仏の道であり、他人の事を考えて行動するという事。神仏は、人間のトップでありますので経営者は、人の上に立つという意味で同じ考えでなければ、経営は上手くいかないのです。

「志と実学」志は利己であり、実学とは実践に強くなる事であり利他である。

50才～53才までが自分で装作出来る年令ですので、それまでに出来る事をしなければならない。（実学）そして時代のニーズに対応出来る者こそ勝ちのこのことの出来る企業である。と私は解釈しました。

これからの自分の人生に大きな力となって表れて来ると思っています。

大変感動し、感謝しております。ありがとうございました。

実学委員会

平成13年1月11日（木）於：米子食品会館 出席者/12名
今月の実学委員会は2月担当例会の打ち合わせをおこなった。

「2月オープン例会のご案内」が今月号のハンサムに同封されて皆様のお手元に届いていることと存じます。我々実学委員会は、盛大なオープン例会を目指して努力に余念がありません。OBの皆様方、会員所属企業の社員の皆様方、特に当会への入会をご予定・ご希望・お迷いの皆様方には是非ともお誘い合わせのうえ、ご参加いただきますよう委員会一同心よりお待ち申し上げております。

実学委員会委員長 武海 章

総務委員会

平成13年1月10日（木）於：米子食品会館 出席者/14名
内容

- a) 会員増強に関する役員会での意見・質問についての総務委員会の見解。
- b) 中央会後期行事予定と総務委員会担当行事の確認
3月18日（日）OB・現役交流会
昼く米子ゴルフ場
夜くホールサムイン皆生
- 4月15日（日）レクリエーション例会
- 5月16日（木）担当例会く境港シンフォニーガーデン
- 7月日程未定 総会
- c) 総務委員会担当行事での各自の役割確認
- d) 各グループ（3月と4月）に分かれて検討

志委員会

平成13年1月9日（火）於：米子食品会館 出席者/12名
釜田委員長挨拶の中で、半年間を振り返り、21世紀は「心の時代」として「感動する行動」とは何か、どのようにすれば出来るのか、今後の委員会活動で考えていきたい。

その後、役員会報告と1月担当例会における最終確認をした。次に、中長期ビジョン及び現状と経営理念を遠藤会員に発表して頂いた。

- 1. 自分の為の人生
 - 1. 木を見るだけでなく森を見る
 - 1. 勝てば官軍
- 平成2年に会社設立してからこれまでの話、不動産関係の現在と今後を熱く語られた。

情報メディア委員会

平成13年1月11日（水）於：ワインハウス オーナー 出席者/11名
特別講師にデジタルネットプランの長井英夫社長を迎え、「21世紀の情報という黒船は鳥取人を脅す」と題した講演をしていただいた。地元よりも主に県外で活躍の長井氏より、情報通信の現状・将として以下の指摘があった。

- 1) 環境の変化
- ★通信回線の高速化・低価格化
①CATVと②フレッツISDNが、ともに常時アクセスの状態でも月額6,500円前後（通信費込み）。③xDSLと④FTTHは今年中にも鳥取県に導入予定。ほぼ同価格で、xDSLはISDNの10倍以上、さらにFTTHはテレビ並の動画も可能というスピードが魅力である。この固定費制という革命で、時間（通信費）を気にすることなく楽しめるので、インターネットの使い方そのものが変わるといふ。

★携帯電話の高速化
iモードからIMT2000へと移行していく。20代は携帯電話の補助としてパソコンを利用するだけなので、この年代をターゲットにするならば携帯電話への対応が必要である。

2) eビジネスのバーチャル戦略
★eビジネスにおいても勝者と敗者が既に生まれており、戦略のない新規参入者には成功の道はない。eといえどビジネスの基本が絶対条件。

★通販・出版・教育・エンターテイメントにおいても大きな変化が進行中。成功例を聞きつけて、大資本による参入があれば勢力地図も一気に変わる可能性がある。

★今後の製造と販売（B to B、B to C）の在り方も変わってくる。地域内での競争が、市場が広がることによって世界規模での競争にもなる。場合によっては、日本の製造業、販売業、ひいては労働市場の空洞化もあり得る。

3) 情報ハイウェイの整備
★距離と時間の格差がなくなる。前述のように市場が劇的に広がることで、現在の仕事においても、ピンチでもあり、チャンスでもある、経営者の考え次第。

★サーバの準備（実費、50～100万円程度）
★常時アクセスの環境（（1）環境の変化を参照）

★情報の平均化。情報によって人々が動くとするれば、今日成功している人でも、明日はわからない。常に他の情報も意識しながら、情報発信をすべき。

★ヒューマン・ネットワークの構築が重要。ITといえば、

機械的であるという印象が強いが、最終的には人間同士のつながりである。ネット上での知り合いを増やし、情報をやり取りする（一方的ではダメ）ことで、仕事でも趣味でもネットワークを作り、社内外の活性化をする。

★ITアドバイザとの契約。最後は少し長井氏自身の宣伝となったが、「立て板に水」といった話しぶりで、どんな質問にも的確に答えていただき、それを実感した。足立会員自慢の美味しい料理と美味しいワインをとりながらの講演で、具体的な例を多数挙げてもらい、わかりやすくてまた危機感をもたされる話だった。

広報委員会

平成13年1月9日（火）於：米子食品会館 出席者/11名
内容

2月号ハンサム、企画、紙面割り
今月はC班が企画、紙面割りを担当する。
まず1面には鳥取県西部地震の義援金を県庁をおとすれ、贈呈した時のことを記事として報告を行う。

そして1月例会の報告もあわせてのせる事となった。
2面には岩崎委員の取材で政治・地域ビジョン委員会を取り上げる。

3面には厄落しとの会について田中委員が取材する。
4面には、IT特集、新入会員のあいさつ等をのせる。

また今月からニューカマーズ委員会より松浦氏が編入する事となり歓迎会を行った。

21地球委員会

平成13年1月11日（木）於：大連 出席者/10名
今回、ニューカマーズ委員会から長谷川会員が新たに配属され、当委員会は16名となった。今月の委員会は、下期活動予定を参加者全員で確認した。

外部から講師を招き、講演していただくスタイルが中心となる。各講師の専門分野が「大山の美化管理」、「妻木晩田遺跡の発掘調査・保存」といった我々にもなじみの深いものであるために理解も進むものと思われる。

そのあと3月担当例会の役割分担を協議した。

恒例 厄落しの会開催

さる1月28日（日）西部青年中央会の厄落しが行なわれた。

今年の厄落しの幹事は石指・徳中両会員の音頭により神田神社にて昭和33年～昭和36年生まれの会員のうち神事に20名参加し、神事に参加出来なかった人の分までみなさんが御祓をしてもらった。

午後12時に厳粛に神事が行われ、夏山会員が玉串を奉納し無事祈願を終えた。ここまでが第一部の厄落しでこの後場所を皆生菊乃家に移し、第二部の厄落しが行なわれた。

土井会長のあいさつに始まり神社より頂いた御神酒で厄落しの乾杯を行なった。その後石指会員の司会で菊乃家のおいしい料理に舌つづみを打ちながら和やかに歓談が始まった。みなさんやかな歓談も中ば過ぎたところに、武海会員の司会により楽しい余興が始まり各会員とも普段見ることの出来ない笑みをうかべていた様です。最後に奥森県会長のあいさつで無事厄落しの会を閉会することが出来ました。



閉会後はまだ厄落しがたりない方々は三散後々新たな厄落しの場所へ移動された様です。

前厄、本厄、後厄、厄明け御礼参りの方々今後は健康に気をつけ仕事に精を出し家庭サービスを行ないよい年を送って下さい。

最後に神事から懇親会までお世話して下さいました石指・徳中両会員、御苦勞様でした。また来年対象となる各会員の方々是非来年厄落しの会に参加お願いします。すばらしい御利益まちがいなしです。